



新潟県 新潟市遊技場組合
「老人福祉施設慰問元気回復」事業



新潟市遊技場組合 青年部会
部会長
新井浩昌さん

ふれ愛パチンコ大会で
老人施設入居者に
元気を届ける

本業を活用した社会貢献活動を31年間継続

さまざまな社会貢献活動があるなか、本業であるパチンコそのものを活用した事業は、ある意味、この業界ならではの社会貢献と考えられるが、それを31年間という長期にわたって継続しているのが新潟県の新潟市遊技場組合である。市内にある老人福祉施設(養護老人ホーム松鶴荘、軽費老人ホーム有明ハイツ)を1年おきに交互に訪問し、パチンコ機を持ち込んで、施設に入居する方々にパチンコを楽しんでもらうのが、同組合が続けている「ふれ愛パチンコ大会」である。

「最初は、若いころにパチンコを楽しんでいたお年寄りの方々に、再びパチンコで楽しみや喜びを提供したいという思いでスタートしたと、先輩方から聞かされています」と話すのは、新潟市遊技場組合青年部会の新井浩昌部会長。この事業は、当初から青年部会の中心的な社会貢献活動として行われてきたが、現在も8名からなる同部会が全員参加を原則に、その伝統を受け継いでいる。

施設側との打ち合わせなどの事前調整を重ねた後、当日は台枠にセットした6台のパチンコ機など、設備一式を持ち込んで現場で設置するほか、大会進行、プレーのサポート、計数、表彰、撤収まで、青年部員一人ひとりが文字通り、それぞれの持ち場で汗を流す。なお、パチンコ機の搬入・設置・調整などにあたっては、設備機器販売業者からボランティア同然の多大な支援や協力を得ている。

大会の形式としては、参加者が各自3~4分間プレーし、出球の数を競い合うというもの。成績に応じて1~10位までに記念品が贈られるほか、参加者全員に参加賞が贈られる。このほかに、そのつど、施設側から要望のあった物品(車椅子、衣類乾燥機など)を寄贈している。また、日ごろから良好な関係にある菓子・飲料メーカーも、慰問品として菓子や飲料などの物品を提供してくれている。なお、このパチンコ大会は、第二部として津軽三味線や民謡ショーも行われる。



「ふれ愛パチンコ大会」に参加するお年寄りの方々



上位入賞者には景品を贈呈



大会の第二部として開催された津軽三味線や民謡ショーの様相



施設に対し車椅子3台を寄贈

喜ぶ顔が見たいという純粋な動機が継続の要因

「社会貢献という言葉で捉えると、固くて難しいイメージになりがちですが、私たちの目的は、施設で生活しているお年寄りの方々に喜んでいただきたいという、ある意味では単純なことです。みなさんの喜ぶ表情が、こちらの楽しみであり、励みでもあって、その顔を見たいがために、さあ今年もメンバー全員で行こうかなといった感じです。それが、この活動が長く続いている最大の要因ではないかと思っています」

新井部会長はさらりと話すが、決して多いとはいえないメンバーで活動を継続するのは容易ではない。それぞれが忙しい仕事を抱えるなかで、準備から当日の運営までを進めなければならない。「それができるのも、みなさんの協力のおかげ。とにかく安全第一ですから、施設側の協力も欠かせません」と語るのは、事務局長の古俣喜久雄さん。事務局では、スペース確保などの施設側との事前調

整や地元のマスコミ機関にプレスリリースを配布するなどを担当している。

実は、この事業を実施する必要条件とは、パチンコ機を設置するスペースがあるかないかといった問題である。類似施設から、うちでもぜひという要望が寄せられるが、十分なスペースがないため、実施を断念せざるを得ないケースも少なくないという。安全確保のため、致し方ないことだが、それさえクリアできれば、もっと実施場所を増やしていきたいと新井さんと古俣さんは口をそろえる。老人施設の催事や行事というと、どうしても受身のものが多く増えてしまいがちだが、パチンコには能動的な楽しみや勝ち負けのゲーム性があるために、参加するお年寄りの方々も、若い頃に戻って楽しめるのに違いない。「みなさんの喜ぶ顔を“タスキ”として、今後もぜひ、青年部の中心的活動として続けていきたい」と、新井部会長は結んでくれた。

選考理由

社会貢献活動審査委員会 委員
松尾守人氏



記念品を提供してのふれあいパチンコ大会を催し、アトラクションとして津軽三味線や民謡を楽しんでもらう。外出の機会が少ない施設の老人たちの元気回復に貢献。アトラクションの内容や寄贈品(今年は車椅子3台)についても事前に施設や入所者の希望を聞いて行うなど、配慮と心遣いを感じる。組合員自ら汗を流しての活動が社会貢献意欲の向上につながっており、この地道な活動が31年間継続されていることに敬意を表したい。